

「車の整備士足りない」

県内 人口減少、車離れ…志望者減

現場や養成施設 育成に注力

人口減少、若者の車離れ、労働環境の厳しさなどを背景に、全国的に自動車整備士の志望者が減少している。県内の自動車整備工場などでも「整備士が足りない」との声が聞かれ、人手不足への懸念が広がっている。生活に欠かせない「足」の安全を守る技術者を育て確保しようと、整備の現場や整備士養成施設は対応を急いでいる。
(新村菜穂、若松清巳)



先輩整備士とともにタイヤを交換する蛭子さん。「お客様の大事な車。慎重な作業を心掛けています」＝八戸市のホンダカーズ青森東 八戸店

「人手は十分とはいえない」と話すのは青森市の民間整備工場に勤めるベテラン男性整備士(52)。整備士の1人が最近、部署替えで現場から離れたといい、「最も忙しい2〜4月ごろは休みが週に1日取れるかどうか。正直きつい」と打ち明ける。自動車整備士を志す若者は減っており、「どこ」の工場も人材確保は厳しいと聞いているという。

国土交通省の報告書によると、自動車整備士を養成する学校への入学者は10年間ではほぼ半減。現場で働く整備士らスタッフの高齢化も進んでおり、人材不足が顕在化する可能性が大きいと指摘している。

東北運輸局青森運輸支局への自動車整備士技能検定の合格申請件数は、2008年度の570件から16年度は400件、17年度(速報値)は427件と減少傾向だ。整備士の育成・確保に向け、県内でも業界関係者や養成施設の教員らによる連絡会が14年度から開かれている。

県自動車整備振興会の河村雄一専務理事は「県内、全国とも、近年は沿岸部や山間部など人口の少ない地域で人手不足による整備工場廃業が目立つ」と指摘。近くの工場が整備を受けられない、急な不具合にすぐ対応できないなどの事態が起きるとい、「交通の安全に支障をきたしかねない。整備士の待遇改善や福利厚生充実を図っていく必要がある」と語る。

こうした中、貴重な整備士の卵を着実に社会へ送り出すべく、養成施設も人材育成に力を入れる。八戸工業大学工学部の自動車工学コースは、2級自動車整備士の登録試験に今春、受験者8人全員が合格。合格率は6年連続で100%を達成した。

合格した8人の1人で階上町の蛭子泰之さん(23)は卒業後、八戸市の「ホンダカーズ青森東 八戸店」のサービスセンターで整備士の道を歩み始めた。学生時代に車の燃費を競うレースに出場し、高めた技術が結果につながる楽しさ、達成感を味わったのをきっかけに整備士を志したという。今は先輩整備士の点検作業やタイヤ交換などを手伝い現場で手順を学ぶ日々。蛭子さんは「一人前になれるよう頑張りたい」と意気込む。小川大輔工場長(45)は「電気自動車への対応など技術を常に高める一方で、お客様の安全のため、予防的な整備を提案できる対話力もつけてほしい」と新人を見守る。

蛭子さんを指導した八工大の浅川拓克講師は「人の命を預かり安全を守るという意識を、大学のうちから持てるよう努めている。就職の際は学生の将来のためにも、一人一人に合った企業を探し早期離職を防ぎたい」ときめ細かな支援の重要性を強調した。

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」